

氏名	千貫 大介
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	乙第267号
学位授与年月日	平成20年12月3日
審査委員	主査 教授 並河 徹 副査 教授 関根 浄治 副査 教授 小林 裕太

論文審査の結果の要旨

食道下部に発生するバレット食道は、本来扁平上皮で覆われる食道粘膜が胃型もしくは腸型の腺上皮に置換される現象で、逆流性食道炎に起因すると言われている。バレット食道は食道腺癌の発生源となるが、近年食道腺癌は急速な増加傾向にあるため、これを予防、治療することは重要な課題である。申請者は、regenerative gene IA の産物である増殖因子 REGI α が、萎縮性胃炎とそれをベースに発生する胃癌の発生に関与することから、バレット食道においても何らかの役割を果たしているのではないかと考え、本研究を実施した。内視鏡検査にてバレット食道と診断し12ヶ月後に再検査を行った266例を用いて REGI α を免疫染色したところ、48例（18%）が陽性となった。単変量解析では、高齢、裂孔ヘルニアや胃粘膜萎縮の存在、12ヶ月後の再扁平上皮化、胃型粘膜、低apoptosis indexに REGI α 発現との有意な関連を認め、多変量解析によって、このうち、高齢、裂孔ヘルニア、再扁平上皮化が独立して REGI α 発現に関連していることが明らかとなった。本論文は、バレット食道での REGI α 発現を初めて証明するとともに、この増殖因子がバレット食道の再扁平上皮化に関連する可能性をヒト臨床材料を用いて示した点で価値が高く、学位に値すると判断した。